

10月 (定例)・臨時 教育委員会会議録

日 時	平成28年10月18日(火) 午前10時00分から
場 所	山梨市役所 3階 応接室
出席委員名	市川今朝則・廣瀬孝子・幡野勝彦・林正文・三森智文
出 席 事務局員名	小川鉄男、中村貴仁、高原歳徳、倉田憲一
委員会書記	小林徹

議題及び議事の概要

○議事

(1) 教育委員学校訪問日程について

市川教育長) 11月21日、24日、28日、29日の4日間で1日3校まわることをしたい。詳細は資料にて説明。

中村課長) 地区公民館他生涯学習課施設訪問について、1月実施でお願いしたい。日程は11月の教育委員会にてご相談したい。

(2) 9月議会について

市川教育長) 9月1日開会、9月29日閉会。9月15日代表質問2名、9月16日一般質問5名。詳細は資料にて説明。

幡野委員) 笛川小学校をICTモデル校として指定するとのことだが費用面のこともあるが、将来的に市内全域に広げるのであれば早めにネットワーク構築等を行った方がよいのではないか

小川課長) 計画段階であるので詳細は今からだが、平成27年から3年間で国の少子化対策事業を活用しタブレットを導入。状況を検証したうえで、これをベースとして山梨市としての計画を立てていきたい。システム的には大きく2つ校務支援システム関係と学習支援システム関係となるが、インターネットの脆弱性の問題からインターネット環境の在り方の検証も必要。利便性とセキュリティーを両立させていくための検証期間を来年度まで行い、その後の5ヵ年計画として考えている。

市川教育長) 検証が終わってからスタートでは導入に時間がかかってしまうので、可能なものについては、早く手をつけたいとは考えているので財政面の要求も進めたい。

廣瀬職務代理) ICT教材使用や英語科教育の時間増加に伴い、先生の負担(軽減)も考慮する必要がある。

市川教育長) 先生に対する ICT 教材使用については、導入時に専門家による指導はもちろん、ICT 支援員が常駐して対応するようになると思う。ICT 研修については、笛川小学校以外の学校の先生も研修に参加できるようにする。

三森委員) 議会の質問にも出ていたが自殺予防について。山梨市においては深刻な状況ではないと思うが、現状についてはどうか。

市川教育長) 夏休み明けに子供の自殺が多いとの新聞記事による議会質問であり、山梨市においてそのような事例があったということではない。

### (3) 学校欠席者情報収集システム (サーベイランスシステム) について

市川教育長) 学校欠席者情報収集システムは日本学校保健会が全国的な運用を目指している。山梨県においても来年の11月までに県内すべての学校での運用を目指している。山梨市においては今年の12月1日からスタートすることを考えている。学校欠席者の情報をパソコンに入力し関係機関が一元的に管理することにより、インフルエンザ等感染症の情報を把握できるので素早い対応が可能になる。また、各学校においても他校の状況がすぐわかるので、校内対応が早期にできる。

幡野委員) 欠席理由の入力は傷病のみが対応か

市川教育長) 目的は、感染症等への対応となるので傷病の理由別に入力することとなる。

### (4) 全国学力・学習状況調査結果の公表について

市川教育長) 4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果について、市の状況と各学校の状況をリーフレットにて各家庭向けに作成し、11月中旬には配布したい。各学校の状況については、「全国平均をやや上回っている」等の文言による表記とする。

廣瀬職務代理) 家庭用リーフレット子供に渡すと家庭にきちんと行き渡るか、また、各家庭が結果を自分の子供のこととして捉えてもらえるか心配。

倉田指導主事) 個人のデータも入った個票も含め、学力テストの結果をファイリングしてそのまま渡しており懇談の際、使用するので大丈夫かとは思う。

### (5) 山梨市立学校職員の評価結果に対する苦情処理実施要綱について

市川教育長) 人事票制度が、人事・給与に影響するので、評価に納得がいかない場合の苦情処理を行う手順を定めた。申出があった場合は審査会が開かれ、その結果を参考に教育長が、再評価を行う必要があるか決める。

林委員) 評価の内容は開示請求した人のみか

事務局) すべての人に、どのような形にせよ結果が分かるようなことになると思う。

(6) 家庭学習習慣の確立にむけて

市川教育長) 山梨市における家庭学習資料を基に説明。家庭学習時間が2時間以上の割合が全国と比較し、小学生では約10ポイント低く、中学生では約5ポイント低い。過日の校長会にて、「家庭学習習慣の確立に向けて」のプリントを校長に配布。すべての小中学校が「家庭学習習慣の確立」をあらためて共通課題に掲げ、保護者と連携し、組織的に取り組むこととしたい。単なる掛け声だけでなく「徹底」を図る。これらの取組により、学力学習状況調査のA問題(基礎)に対する学力の定着も図られるものと考えている。学力向上委員会のテーマとして研究を進めていきたい。

幡野委員) 全国平均との差を感じる。家庭と連携した対応は大切であると思う。

市川教育長) 子供や先生の指導力に差があるとは思っていない。しかし、学習時間に差があることは明らか。学力日本一と言われる秋田県などとは決定的に違っている。

廣瀬職務代理) 家庭学習はどのように進めればよいかの指導は。

倉田指導主事) ワーキンググループで各学校における家庭学習の現状を出し合ってもらい先生同士の情報共有をするなかで指導を進めていきたい。

市川教育長) 最終的な目標の一つが自主的に家庭学習に取り組むことではあるが、当面は授業とリンクした課題等により進めることとしたい。

廣瀬職務代理) 児童生徒が間違えた部分を、なぜ間違えたかを分析することが大切と思うので力を入れても良いと思う。

(7) その他

なし

次回 11月22日(火) 10時から

議決事項

その他、会議において必要と認めた事項